

# プロへ もう一つの道

関西を拠点とする野球の独立リーグ、ベースボール・ファースト・リーグ(BFL)で今季、最速144キロ右腕として新人ながら最多勝に輝いた兵庫の三山篤郎投手(17)。11月下旬、兵庫県西宮市内のレストランでプリントの問題を解いていた。在籍する通信制高校の向陽台(大阪)には野球部がなく、高校野球を経ずに日本野球機構(NPB)入りを目指している。

## 高校野球 新世紀

第7部 甲子園とは別に

5 独立リーグ提携



プリントの問題を解く 三山篤郎投手

今年4月からBFLの兵庫は向陽台、同じく和歌山は神村学園(鹿兒島)の通信制とそれぞれ教育提携をしている(契約締結はいずれも昨年11月)。スローガンは「成功の道は一つではない」。立案した高下沢(こうげ・たく)・両球団代表(34)は「今の日本の野球界は一度失敗すると、その後の選択肢がない状況。もう一つの道を作るべきだ」と訴える。

兵庫は菅屋学園(兵庫)と提携し、2014年に高校に野球部を新設。球団の育成機関として位置づけ、日本高校野球連盟に加盟せずに「甲子園を目指さない野球部」としてスタートした。だが、その活動は「練習

場所の確保などいろいろな課題があった(高下代表)として4年間で終了。その後、高校中退者が兵庫に入団したことから、高下代表はサッカー・Jリーグのガンバ大阪ユースと提携している向陽台、活動に理解のある神村学園とそれぞれタッグを組むことを決めた。現在は兵庫の6人、和歌山の4人が高校に在籍し、元プロの指導を受けながら技術を磨いている。三山投手は甲子園出場経験のある私立校に進学し、2年生の秋にはユースで主将を任せられた。だが、監督の度を越えた指導に「野球が好きではなくなってしまう」と感じ、2年生の冬に退部して学校も退学した。野球を諦められず、高校の元チームメイトが在籍する兵庫の入団テストを受けた。

高校野球にはない独立リーグの利点に「プロと試合ができること」を挙げる。自らの力量を知ることができるとともに、高校生同士の試合で活躍するよりも、プロを抑えた方がNPB球団のスカウトに分かりやすくアピールできるからだ。今年5月、巨人3軍を相手に2回を投げて無失点。以前の高校では「プロに行けると思っていたいなかった」というが、その試合での好投で「チャンスがあるんじゃないか」と意識が変わった。今季8勝を挙げ、ドラフト候補になった。「甲子園に憧れていたが、もし出ていたとしても今のようなプロ入りのチャンスはなかったと思う」と後悔はなく、来年のドラフト指名を目指す。夢をかなえる手段は一つではない。

【安田光高、写真も】  
「おわり」  
デジタルプラス  
取材後記